

土づくりの考え方は、ただ堆肥などの有機物を施用するだけでなく、排水性、保水性、生物性など、多面的にみて作物が健康に育つ土壌を作ることが目的とします。

1 土づくりの目的

土づくりは、根張りを良くするための土壌の物理性の改善、作物の生育を促すための養分供給を目的とした科学性の改善、根幹環境の改善のための微生物性の改善です。

物理性の改善には機械利用による耕盤破砕、過度の乾燥や湿りの回避、有機物の鋤き込み、深根性植物の植栽、土壌生物利用があります。

化学性の改善には堆きゅう肥の利用、有機質肥料の利用、ぼかし肥の利用、緑肥作物の利用、土壌養分の適正化があります。

生物性の改善には養分の適正化、物理性の改善、有機物の利用、微生物資材の利用、田畑輪換があります。このようなことから、土壌を長期間良好に管理するための知識として。

土壌物理性

- ・ 堆きゅう肥等有機物を施用する。
- ・ 深耕による根圏環境を改善するため深耕ロータリー、プラウ耕をする。
- ・ 深く根を張る植物のソルゴーやギニアグラスなどを植える。
- ・ 畑を長期間空けると土が締まった状態になるので作物を植え輪作をする。
- ・ 雨後の畑には2、3日は入らないこと

土壌化学性

- ・ 肥料は植物が吸収する分を過不足なく、与えることが大切です。基本を守ることです。
- ・ 元肥の施肥位置を工夫し、追肥は雨後雨前を狙い、効率よく吸わせませす。

土壌の生物性

- ・ 連作障害を回避する。連作障害といわれるものの殆どの原因は、土壌中の寄生性センチュウや病原微生物が増加した結果です。

2 連作障害が出やすい野菜、出にくい野菜

連作しても障害が出にくい	サツマイモ、カボチャ、コマツナ、タマネギ、ラッキョウ ニンニク、ミョウガ、フキ
連作しても障害が出やすい	エンドウ、スイカ、ナス、トマト、キュウリ、ソラマメ サトイモ、ゴボウ、ハクサイ、ハナヤサイ、レタス
接木すれば連作障害を回避	スイカ、ナス、トマト、キュウリ、メロン

3 主な野菜の輪作年限

1年休閑	ハウレンソウ、コカブ、インゲンマメ、キョウナ、タカナ、タイサイ
2年休閑	キュウリ、イチゴ、ハクサイ、レタス、パセリ、ミツバ、ショウガ
3～4年休閑	ナス、トマト、ピーマン、メロン、ソラマメ、サトイモ、ハナヤサイ シロウリ、クワイ、ゴボウ
4～5年休閑	エンドウ、スイカ

参考文献 これから始める野菜栽培